

# 手間と愛情を

## 惜しみなく受けたりんご達

**現** 在、約15ヘクタールの園地で、除草剤を使わず、減農薬、葉とらざのりんご栽培を行っています。父は、約40年前から堆肥をすきこんだ健康な土づくりに力を入れており、その後、地面を覆う下草を刈り取って土に還元する「草生栽培」を行ってきた。環境にやさしい農業に取り組み、エコファーマーにも認定されています。

一般的に色を良くするためにりんごのまわりの葉を摘み取るのですが、うちでは収穫まで葉を残すことで十分に光合成をさせ、甘くおいしいりんごに育てます。そのほかにも、作業内容に合わせて農機具や軽トラツクを改良するなど、徹底した作業の効率化・省力化を図りながらも、安全・安心、環境保全の部分では手間を惜しまず、品質の高いりんごづくりに取り組んでいます。

### 「全部、買い取りたい」 関東の百貨店が認めた品質

**葉** とらざりんごは、表面に色むらがあでもされませんでした。しかし、消費者のニーズが見た目よりも味、安全・安心なものに変化してきた10数年前から、手ごたえを感じるようになったんです。高品質な農産物を扱うことで定評のある関東の百貨店から、「全部、買い取りたい」という申し出があり、そこから口コミで広がり全国から注文をいただくようになりました。

大規模経営には、それを支える人づくりが重要。従業員と一緒に成長していけたらと思っています。

私は農家の3代目ですが、今は農家の息



【インタビュー】  
有限会社せい農園の農園  
専務取締役  
清野 耕司さん  
(弘前市・電話 0172-34-2575)

子・娘だから継ぐという姿勢ではいけません。まわりには、他県から移住して新規就農を始めた人、意欲にあふれさまざまなことに挑戦し続ける若い農業者がたくさんいて、すごく刺激になります。これからの農業は、いかに自分のファンを増やしていけるか。仲間でありライバルである若い農業者と一緒に、青森の食の魅力在全国に発信していきたいです。

清野さんは安全・安心なりんごづくりのため、生産基盤を強化しています。県では、安全・安心な農産物を安定供給するため、すべての生産者が「健康な土づくり」に取り組むことをめざす「日本一健康な土づくり運動」を展開しています。今年度は、土壌診断に基づく適正堆肥などの高度な土づくりを行う「あおもり土づくりの匠」による技術指導や環境にやさしい農業の取組を推進しています。

圃 食の安全・安心推進課  
電話 017-734-93352



～力強い挑戦者たちが、  
青森の食の強みをとことん極める～

りんごに手を加え

## 新たな命を吹きこむマジック

**「り**んごの皮をむいて食べやすいサイズにカットし、時間がたっても切り口が変色しない加工品が作れば、新たなビジネスチャンスにつながるのでは？」。そう考え、1999年に仲間と一緒にカットりんごを製造・販売する会社を設立しました。しかし、技術が未熟であったため、切り口が茶色になる褐変が相次ぎ、2年で解散に追い込まれてしまいました。

でも、どうしても夢をあきらめることができません。すでにカットりんごを給食に導入し始めていた青森県学校給食会が、品質の改良を待っていてくれたこともあり、褐変防止とジューシーさを保つための鮮度保持の技術開発に独学で取り組みました。県などのアドバイスを受けながら、ついに数年後、安全・安心で高品質なカットりんごの技術確立にこぎつけたのです。

### 商社と組んで販路拡大 日本初！自販機で買えるりんご

**2** 008年には商社と共同出資し、「株式会社アップルファクトリージャパン」を設立。全国に販路が広がり、今では病院や老人保健施設、全国の学校給食、大手スーパー、コンビニなどにも提供しています。また、東京の地下鉄駅や大阪のオフィスビルなどに日本初のカットりんごの自動販売機を設置。ビジネススマンやOLにも好評です。

カットりんごの普及により、原材料の確保のため、うちの園地も就農当時に比べ規模を拡大し、生産者からのりんご買取り量も年間1万4千箱にのびります。従業員以外にも年間900人以上のパートを雇用。

農業研修生も受け入れ、新規就農をめざす若者のバックアップを行っています。

生産・加工業者と流通販売業者が、お互いの強みを生かして連携すれば、青森県の食産業にはまだまだ未来と可能性があるはず！今後は、さらに園地規模を拡大し、カットりんごに次ぐヒット商品に挑戦したいと思っています。

大湯さんはカットりんごの加工技術により商品力を高めています。県では、このような、いわゆる「6次産業化」を進めるため、「食産業づくり相談窓口」を設置し、専門家を交えたきめ細かな支援やビジネスマッチングなどを行っています。

また、農林漁業者と地域のさまざまな事業者が連携して取り組む「地域の6次産業化」を推進しており、今年度は商品開発や販路開拓に取り組むための支援も行っています。

圃 総合販売戦略課  
電話 017-734-9456



【インタビュー】  
株式会社アップルファクトリージャパン  
代表取締役  
大湯 知己さん  
(平川市・電話 0172-49-5722)